

## ティーチング・ステートメント

所属 工学部建築学科

名前 前田 憲太郎

作成日 2024年2月26日

【責任】 建築学科に所属し、主に構造系を中心とした教育研究活動を行っている。主たる科目は、理数系、構造系の建築数理、建築構造力学Ⅲ、鋼構造、建築構造実験の他、日本建築のデザインや構造、構法の歴史を学ぶための日本建築史、論文を作成するための各種技術を学ぶための日本語表現法Ⅲを担当している。研究室は、鋼構造に関わるテーマでの卒業研究指導を行う。課外活動では、自転車部、HCP、ふるさと交流会の顧問を担当している。

【理念】 卒業後は、幅広く勉強し続けられる能力を持った人材を育成する。建築分野においては強・用・美（安全性、快適性、美しさ）を兼ね備えた良い建築を設計または施工できる人材を育成する。様々な社会情勢において、自身が好きな仕事ばかりできるとは限らない。その時には、自分では望んでいない職種でも、しっかりと続ける事で興味のある仕事になることもあれば、本来やりたい仕事につながる事もある。どんな状況でも、前向きに勉強し続ける事は、自身の価値を高めるとともに、必要とされる人材となる。

また、建築分野は強・用・美の全てを満たすことが良い建築の条件となる。この場合、理数系から芸術分野まで幅広い知識が必要であり、異常気象などの自然災害から人々を守るための知識など、日々更新され続けるに事柄に対応しなければならない。このように、建築分野では、建築以外の様々な専門分野の人々とも協働して建築物を造り上げる必要がある。このため、建築分野以外の人々とも交流を持ち、相談できる環境を築いておくことも重要である。

### 【方針・方法】

建築における様々な専門分野を学習する動機付けを明確にするとともに、理数系の授業は、教科書を読み、演習問題を解くことで、専門書を読む能力、各自が考えて理解する能力を養う。専門書を読む能力、各自が考えて理解する能力を身につけることで、勉強することへの抵抗をなくし、知識を得ることの楽しさを体感させ、生涯にわたり、勉強を続ける能力が身につくと考えている。

また、建築物を設計・施工することは、様々な分野との連携が必要となるため、学科以外の学生と交流ができる課外活動を推奨する。

方針1 建築における様々な専門分野を学習する動機付けを明確にする。

理数系、構造系の授業は、難易度が高く敬遠されがちであるため、次の方法により学修する動機付けを行う。当該授業の動機付けの成果は、授業アンケートにより評価する。

- 1) 他の科目との関連を説明する。
- 2) 建築士試験を想定した演習問題を用意する。
- 3) 実務ではどのように扱われているかを説明する。

方針2 専門書を読み解く力を養う。

- 1) 授業は教科書の説明を中心として行い、講義内容を教科書や配付資料へのメモによりが理解できるように構成することで、専門書を読み、理解する能力を養う。
- 2) 授業中は、学生へ問いかけを行い（オンラインでは、チャットや Moodle の小テスト）理解度を把握し、状況に応じて説明を追加することで、専門書を読むために不足している事項を補足する。

方針3 自分で考え理解する力を養う。

構造系の授業では演習を必ず課し、基本問題は解説しながら解き、応用問題は自分で考えて解答を導けるような構成にする。

方針4 他分野の学生との交流を促す。

顧問をしている課外活動団体での活動を活性化させ、様々な学科の学生の交流を促す。

#### 【成果・評価】

・担当した構造系の授業の成績は2極化する傾向があった。ただし、教科書に付箋を貼ったり、書き込みをしたりしている学生が多く、教科書をしっかりと読み込む習慣はついたものと思われる。

・「鋼構造」の授業では、授業の冒頭で、鋼構造の建物を紹介しつつ、その回で学修する内容がどのように必要か、解説することを取り入れた。学生の興味を十分引けていない、授業内容とリンクしない回があるなど、改良の余地は多い。

・「鋼構造」（受講者数が80名程度）では、毎回の授業で用語集の作成を義務づけている。はじめて知る用語、重要と思われる用語など各自書き出し調べることで、主体的な学びが出来るようになることが目的である。評価は用語の個数で評価点を付与しているためか、単に個数を稼ぐ内容であったり、授業へのやる気や取り組みを評価するために行っているため無駄（授業改善アンケートのコメント）と勘違いしている学生がいる。本来の目的が達成できるよう、用語集の作成内容や評価方法を検討するとともに、用語集を課している目的を周知する必要がある。

・顧問をしている「ふるさと交流会」にて、2023年度はコロナ前に行っていた夏期交流会、大学祭出店、大学祭反省会、冬期交流会を対面で開催することができた。他学科の学生および教員と交流する機会を確保出来たことは、今年度の成果として大きい。今後も継続していく。

【目標】長期目標：自身で考え、学び続けられる能力を養うための授業を構築する。

短期目標：担当以外の授業との関連がわかる資料を用意する。

今回更新する目的

前回作成したTSの確認のため